

小学校音楽科における授業再開後の指導事例集

教育芸術社 第一編集部

学校の授業再開後に音楽の授業を行う際、歌唱や一部の器楽の活動等が制限される状況が予測されるため、先にその対応の方法について例示いたしましたが、このたび改めて、各学年の教科書の題材及びそれに含まれる教材の指導において、特段の配慮を必要とするものについて、具体的な指導事例を作成いたしました。

今後の指導計画作成並びにご指導にあたって、お役立ていただければ幸いです。

第6学年 題材1「歌声ひびかせて心をつなげよう」

♪ 明るくひびきのある声で歌いましょう 「明日という大空」(1時間)

●今 何をする?●

★自分の声へのイメージや課題などについて考え、歌う活動が再開できたときに生かせるようにすることを知らせます。本学習では、曲の速度、旋律の反復や変化、強弱等の曲想に着目して、指揮や手による体の動きを取り入れながら曲の表現への工夫のイメージを膨らませます。

☆準備するもの等

- ・電子黒板やプロジェクターを活用し、拡大した歌詞や楽譜の用意
- ・楽譜に階名を入れたり、強弱記号の意味を調べたりするワークシート
- ・メトロノームを用意し、指揮棒も準備できるといい

1 見て、聴いて

◎「拡大した楽譜を指でなぞりながら聴き、曲全体の感じを捉えよう！」

- (1) p. 11 の歌詞を見ながら指導用CDの範唱を聴き、曲全体の感じを捉える。
 - ・気持ちが込められている言葉に印を付けて聴くようにする。
- (2) 楽譜を指でなぞったり、リズムを手拍子で打ったりしながら、旋律の特徴や曲の構造 $a - a' - b$ の反復・変化を捉える。
 - ・最初の音の指の位置を決めて、範唱を聴きながら拡大楽譜を指でなぞるようにする。
 - ・リズムを手拍子で打ちながら聴き、シンコーションのリズムや音符の長さにも気付かせていく。

2 聴いて、動いて

◎「手を使って表現の工夫をしよう！」

- (1) メトロノームの役割を知り、曲に合った速さを感じる。
 - ・教科書に提示してある $J = 116 \sim 126$ をメトロノームで示しながら、教師の演奏でその違いを聴き取る。速度記号は作曲者の意図であり、曲想を特徴付ける要素の一つであることを知る。どの速さがいいと感じたか挙手で決め、教科書に速度記号を書きこむ。
- (2) 歌う代わりに、体の動きで自分が演奏したい表現を表す。
 - ・教科書やワークシートに自分が表現したい強弱記号を書き込んで演奏への思いを記入する。
 - ・体を動かす際には自分の席を移動しないことを条件にして、手の上下運動で強弱を表すなど独自の方法を大切にする。指揮をすることも有効であることを知らせる。
 - ・指揮の希望が多い場合には、教科書 p. 37 を参照して、強弱表現についての工夫を取り入れさせるとよい。
 - ・指導用CDや選んだ速度の教師のピアノ演奏を聴きながら各自の表現で演奏を楽しむ。

●評価

知 曲想と音色、旋律の反復や変化、歌詞の内容との関わりについて理解している。

思・判・表 曲想と旋律の反復や変化、速度との関わりについて考え、曲にふさわしい表現を指揮や体の動きを工夫して、どのように表現するか思いや意図をもっている。

●これからどうする?●

- ・教室での生活の中で時間を見つけて指導用CDをかけるようにします。歌詞が希望に満ちた内容であるので、この時期の児童を明るい気持ちにすることができます。
- ・この機会に階名や記号等について理解を深める復習のプリントを自宅学習用に持たせ、今後の表現の工夫に結び付けられるようにしましょう。

第6学年 題材2「いろいろな音色を感じ取ろう」

♪ パートの役割や楽器の音色の特徴を生かして合奏しましょう。「ラバーズ コンチェルト」(3時間)

●今 何をする?●

★パートの役割を理解し生かした楽器の編成でグループ演奏をする活動を、3つの学習形態で行います。自分が選んだパートは、主な旋律を生かすために思いや意図をもって表現の工夫に取り組みます。話し合う場を減らし、互いの考えをワークシートに書き込んで進めます。リズム伴奏は後日に加えて完成させることを知らせて学習に入ります。

☆準備するもの等

- ・ 拡大楽譜、p. 20 の計画表に打楽器の分担を加えたグループの拡大計画表(打楽器は後日に)

1 ソーシャルディスタンス座りで・・・見て、聴いて、とらえる

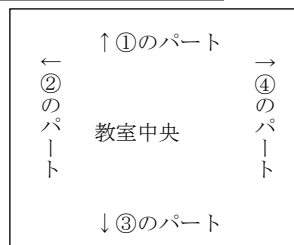
◎「パートの役割と演奏楽器について考えよう」

- (1) 拡大楽譜を見ながら指導用CDの範奏を聴き、曲の特徴や構成について捉える。
 - ・ 8小節の旋律が後半で反復・変化している構造や、4つのパートの構成を理解する。
 - ・ パートに合う楽器を選んでグループで演奏することを告げ、それぞれのパートの特徴を捉える。また、後日にリズム伴奏を加えて完成させることも知らせる。
 - ・ ♭シの音を確認し、キーボード、木琴、鉄琴などで①のパートを演奏してみる。
- (2) 教科書 p. 18 を読み、パートの役割について考え、自分が演奏したいパートを決める。
 - ・ ②③④のパートを、教師が弾くピアノに合わせて手拍子でリズム打ちをして特徴を捉えるようにする。足で4拍子の拍を打ちながら、リズム打ちをするのもよい。
 - ・ 教科書 p. 20 を参考に、自分がイメージした楽器とパートをグループで相談して決める。
 - ・ 指導用CDに合わせ、選んだパートをボディーパーカッションでリズム打ちして合わせる。

2 四角形の外向きパートグループ座りで・・・演奏して、感じて、工夫する

◎「パートごとのまとまりになり、自分の演奏ができるようにする」

- (1) ①②③④のパートのグループ分けをして、同じ旋律でグループを組み、教室の外側を向いて練習と表現の工夫に取り組む。
 - ・ 個々に練習時間を確保後、指導用CDに合わせて何回も練習する。そのときに最初にグループの演奏で計画した演奏に合う音色にするための工夫をマレットの種類等でも示すようにする。



3 四角形の外向きグループ座りで・・・演奏して、工夫を感じ取る

◎「グループごとのまとまりになり外向きで合わせて、中央向きで発表する」

- (1) 2時間目の形態を本時ではグループの場所とし、練習は教室の外側を向いて行う。発表のみ、中央を向き行い、互いに聴き合い、感想を記録する。後日、感想は教師がまとめてプリントにして配布し互いの演奏の評価に役立てる。

●評価●

- 1 **知** 曲想を楽器の音色、リズム、旋律の特徴、音の重なりと関わりについて理解している。
態 曲想とリズム、旋律の特徴、音の重なりとのかかわりに興味・関心をもち、パートの役割や特徴を生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。
- 2 **思・判・表** 楽器の音色やリズム、旋律の特徴、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、演奏の仕方や全体のバランスを工夫し、どのように演奏するか思いを持っている。
- 3 **技** 思いや意図に合った表現にするために必要な楽器の音色や響きに気を付けて、各声部が重なり合う響きを聴き合いながら、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。

●これからどうする?●

後日教師がまとめた友達の感想のプリントを読み、次にリズム伴奏を加えて演奏するときの参考にします。この曲の演奏には様々な編成の音源も発売されていますので、鑑賞するとよいでしょう。

第6学年 題材2「いろいろな音色を感じ取ろう」

♪ 声のひびきが重なるおもしろさを生かして、音楽をつくりましょう。

「ボイスアンサンブル」(2時間)

●今 何をする?●

★音楽づくりでは、音の素材のよさを生かすことが大切です。本来ならば、声の多様な響きを扱いたいところですが、ここでは、楽器や手・足拍子などの音色を生かして、リズムアンサンブルを一人で即興的につくったり、友達と距離を保って三人組でつくったりします。

☆指導用CDには、ボイスアンサンブルの例が示されているので、それを参考に楽器に置き換えて表現することもできます。また、インターネットを活用してリズムアンサンブルを聴くこともできます。

1 楽器や手・足拍子等でリズムづくり

◎「音を声で表すとしたら?」

(1) 教科書 p. 22 のリズムを心の中で「言葉(ツツ、タン、ダウン等)」で唱えながら、それに合う手・足拍子の音を選んで表現する。

例) ① ツツタツ〜=片手を太鼓面に見立てて、ツは手のひらの端、タは中心を強く打つ。

② ウンタン〜=タンで前肩を打つ。

③ ドウンドウ〜=ダウンは右足、ドウは左足を踏む。逆でもよい。

(2) 言葉の例を参考にして、①〜③の「言葉」を考え、楽器を選んで三人組で合わせる。

例) ① チチカチ〜=カウベル(チはミュート) ② ウンパン〜=タンブリン

③ ボン ボ〜=コンガ ※2回〜4回繰り返し、強弱や速度を変えるようにする。

2 リズムアンサンブルづくり

◎「『言葉』から、打楽器や手・足拍子等で作ろう!」

(1) 教科書 p. 23 に示されたリズムを使って、「言葉」で①②のリズムをつくり、一人で表現できる手・足拍子で即興的に表現する。

例) ① ひざ打ち $\frac{4}{4}$. . . | . . . テケケ :||

② 手拍子 $\frac{4}{4}$. パンウタ . | . パンパン . :||

・③を全員が足拍子で演奏し、それによって各自がつくった①+②のリズムを2回繰り返し、リレーで演奏する。※始めと終わりは全員で③を足拍子で演奏する。

(2) 三人組で(1)でつくったリズムに合う打楽器を選び、パートの重ね方やリズムのつなげ方、終わりの部分を工夫し、まとまりのあるリズムアンサンブルをつくる。

・つくる際は、譜面台を間に置くなどして、児童間の距離を保つようにする。

●評価

知・技 楽器等の音色、リズムのつなげ方や重ね方について、それらの働きが生み出すよさや面白さに関わらせて理解し、反復、変化、音楽の縦と横との関係を用いて、全体のまとまりを意識した音楽をつくる技能を身に付けてリズムアンサンブルをつくっている。

思・判・表 楽器等の音色、リズムの特徴、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、楽器等の音色を生かして即興的に音のつなげ方や重ね方を表現することを通して音楽づくりの発想を得たり、音を音楽へ構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりしている。

態 楽器等の音色やリズムの特徴、音の重なりに興味・関心をもち、楽器等の響きが重なり合う面白さを生かして音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。

●これからどうする?●

声で表現できなくても、心の中でツツタツ〜と唱えながら楽器を演奏することは、リズム唱にもつながりリズム表現にはとても有用な学習です。合奏の学習にも生かすことができます。

第6学年 題材「旋律の特徴を生かして表現しよう」

♪ 歌詞と曲想との関わりに気を付けて歌いましょう 「われは海の子」(1時間)

●今 何をする?●

★日本人に長く歌われ愛されてきたその理由を、歌詞や旋律、リズムなど曲を構成する要素からその魅力を発見するようにします。魅力がいくつ見付けられるかを競いながら取り組むのも楽しいと思います。3番までの歌詞から、自分が表現したい歌詞を選んで、曲想表現の工夫を書き込みます。後日歌うことを告げます。

★指導用CDには演奏が2種類入っているので、それらを比較聴取して自分のイメージにどちらが合っているか考えて、次に歌えるときの伴奏を決めておくのもよいでしょう。

☆準備するもの等

- ・拡大した縦書きの歌詞や楽譜
- ・気付きを記述できるようなワークシート
- ・表現の工夫を書き込む楽譜のプリント

1 見て、聴いて

◎「演奏を聴き、長く多くの人に愛されてきた理由を考えよう！」

(1)歌詞を見ながら演奏を聴き、曲全体の感じを捉える。

- ・言葉について解説を読んだり海の写真を見たりして、歌詞の内容を捉えるようにする。
- ・曲の山と歌詞の内容との関連について気付くようにする。

2 聴いて、動いて

◎「旋律の音の動きや、リズムの違いの効果を捉え、表現を工夫しよう！」

(1)拡大楽譜を指でなぞったり、手拍子で旋律のリズム打ちをしたりして聴き、旋律やリズムの特徴を捉える。

- ・指でなぞると、音の上がり下がりが海の波のようになっていることに気付くことができる。
- ・楽譜を見ながら手拍子でリズム打ちをし、ター ン タ タン タンとタン タン ター ン タの2種類のリズムに気付くようにする。
- ・タンを足、ターンタと変えると2種類のリズムの違いが明確になる。このときに歌詞とも関連付け、リズムの違いと歌詞との結び付きの効果についても考えるようにしたい。

(2)自分が表現を工夫したい歌詞を1番～3番から選び、どう表現したいか楽譜に書き込む。

- ・強弱記号や、大切にしたい言葉についての表現の仕方等の記述を書き入れる。
- ・各自で記録した楽譜を拡大して全員に提示し、友達の表現のよさに気付くようにする。
- ・歌えるときがきたら、それぞれの表現で歌うことを告げる。

●評価

知 曲想と歌詞の内容や、旋律の音の動き、リズムの特徴、強弱との関わりを理解している。

思・判・表 曲想と歌詞の内容や、旋律の音の動き、リズムの特徴、強弱との関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

●これからどうする?●

教科書 p. 25 の二次元コードについて触れ、自宅でも演奏を聴くことができることを知らせます。また、この曲について家族と話し合い、曲についての思いをインタビューすることも、曲の魅力を広げるよい機会であることを知らせます。

第6学年 題材7「日本や世界の音楽に親しもう」

♪ 日本に古くから伝わる音楽に親しみましょう。 「越天楽今様」(1時間)

●今 何をする? ●

★「越天楽今様」については、歌わない学習とするものの、比較して聴く活動を行うことにより、曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、歌い方の工夫を考えるようにします。

1 聴いて、理解して

◎ 「越天楽今様」の曲想と音色や旋律の関わりについて理解しよう

- (1) 教科書の楽譜を見ながら、指導用CD (Disc 2-1) の「越天楽今様」を聴き、鑑賞用CD (Disc 1-29) の雅楽「越天楽」の演奏との違いを発表する。
 - ・ 前時に雅楽「越天楽」を聴いておき、その冒頭部分を再度聴くとよい。
 - ・ 曲想と音楽を形づくっている要素との関わりを結び付けて発表する。
 - ・ 「越天楽今様」と雅楽「越天楽」(冒頭部分)を聴いて、旋律の流れを手の動きで表し、気付いたことを発表する。
- (2) 教科書の楽譜を見ながら、指導用CD (Disc 2-1)「越天楽今様」と鑑賞用CD (Disc 1-31)「越天楽今様」の演奏を聴き比べ、演奏の違いを発表する。
 - ・ 声の音色、旋律に着目して聴き、それぞれの演奏から感じ取った曲想と音楽を形づくっている要素との関わりを結び付けて発表する。

2 聴いて、歌い方の工夫を考えて

◎ 「越天楽今様」の歌い方の工夫を考えよう。

- (1) 「越天楽今様」の歌い方の工夫を考える。
 - ・ どのような歌い方をするのか、楽譜に書き込んだり、歌詞の書き方の工夫で表したりする。(教科書4年 p. 27「こきりこ」、教科書5年 p. 57「かりぼし切り歌」の表記を参考にするとよい。その際は、実際にこれらの曲を聴く活動と表記の提示をする。)
 - ・ 実際に歌って工夫することはできないが、例えば、耳をふさいで口を開かずにハミングのように音を小さく出しながら工夫を考えることもできる。(その際はマスクを着用しながらの活動を心がける。)
- (2) 児童が考えた歌い方の工夫を教師が歌う演奏を聴いて、そのよさや違いを感じ取る。
 - ・ 教師と児童の距離が十分に保てる場合に、教師はマスクをして児童が考えた歌い方を児童の代わりに歌い、児童はその演奏を聴いて、友達が考えた歌い方の工夫のよさや違いを感じ取る。(教師の演奏の録音を次時に聴くことも考えられる。)

●評価

知 「越天楽今様」の曲想と音色、旋律との関わりについて理解している。

思・判・表 歌詞の内容や音色、旋律の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、日本に古くから伝わる歌の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

●これからどうする? ●

歌い方の工夫は本来歌い合い、聴き合いながら活動を深めていくことが大切です。このようなことができるようになるまでは、聴く活動を深め、「歌って工夫を表現したら」ということを想定して学習を進めます。それが、中学校での雅楽「平調 越天楽」を鑑賞する際にも生きて働く力になります。